

編集後記



9月11日は十五夜。中秋の名月の脇に寄り添う火星。8月27日には火星が6万年振りに大接近した。火星には地下に水（氷）が存在していることは事実のようであるが、火星の環境を地球環境に近い水と緑の世界にするために、地球温暖化のシナリオを逆に利用して温暖化するのだそうである。壮大なテーマである。次の接近は284年先。温暖化による環境破壊で住めなくなった宇宙船地球号を脱出した人類は、火星温暖化の成功により、284年後に新天地（？）から再接近した地球を眺めるのかもしれない。そのとき何を思うのであろうか。

かぐや姫もうさぎも火星人も、失われつつあるように思われる。

先端基礎研究センターの研究活動を紹介する本誌も、著者、編集委員の皆様のご協力により第11巻（通刊19号）をお届けすることができた。センター発足と同時に創刊、そして10年が過ぎたことになる。その間に時代は20世紀から21世紀へと移った。

(Y.A.)